

令和5年度
社会福祉法人小金井さくら会
事業報告書

社会福祉法人小金井さくら会

2023年度（令和5年度）社会福祉法人小金井さくら会事業報告

はじめに

2023年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が感染法上の分類として季節性インフルエンザと同様の「5類」に移行し、行動制限等の制約もなくなったことから、漸くコロナ禍収束の希望が灯った年度となりました。しかしながら、新型コロナウイルスが消滅したということではなく、引き続き感染防止対策を講じながらの事業運営となりました。

さて、社会福祉法人として中長期計画の大きな柱である「ゆめ工房の移転」がウクライナ侵攻や急激な円安による資材の高騰や予期せぬ追加工事の発生にも負けず、順調に工事が進捗され、2024年3月に建物の完成を迎えられました。これもひとえに多くの関係者の方々のご協力の賜物によるものであり、今後の事業を誠実に行わなければならないということを再認識いたしました。

また、権利擁護や意思決定支援の取り組みとして、第三者委員（オンブズパーソン）の相談体制を昨年度から取り組んでいましたが、利用者の皆さんも相談日における、第三者委員との懇談を楽しみにする雰囲気となりようやく根付き始めた状況となっています。虐待防止の根幹は利用者の権利をどう保障するかという観点を養うことでもあります。このことは障害者福祉を担う法人として基本的な責務として今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。

【社会福祉法人小金井さくら会基本理念】

1. 利用者の尊厳と人権を大切にし、本人主体を尊重します。
2. 利用者の力や能力が発揮できるよう一人ひとりに合わせた支援を心がけます。
3. 利用者の安全と安心に努めます。
4. 利用者が地域に根ざした生活を続けられるよう地域との関わりを大切にします。
5. 障害福祉に携わる職員として自覚を持ち、より質の高いサービスに向け努力します。
6. 「小金井市手をつなぐ親の会」をはじめとした、地域の障害者関係機関との協力や協働により、地域福祉の充実と共生社会の実現に向け、地域と共に成長していきます。

【基本方針】

1. 法人の基本理念を周知徹底し、利用者の意向を尊重し、「安心して自分らしい生活」を送ることができるよう質の高いサービスの提供に努めます。
2. 職員一同がコンプライアンス遵守を徹底し、利用者支援に努めます。
3. 地域の福祉資源としての役割を認識し、地域福祉の向上に寄与します。

【理事会・評議員会】

1. 理事会

第12回 開催日 2023年4月14日（金曜日）14時から16時

【決議事項】

第1号議案 ゆめ工房さくら移転計画の入札実施について

第2号議案 長期資金借入れについて

【報告事項】

理事長職務執行報告

第13回 開催日 2023年6月9日(火曜日) 14時から16時

【決議事項】

第1号議案 令和4年度(2022年度)事業報告書の承認

第2号議案 令和4年度(2022年度)決算報告の承認

第3号議案 ゆめ工房建設に係る入札及び契約書の承認

第4号議案 第5回評議員会開催の決定

【報告事項】

① 理事長職務執行報告

② ゆめ工房さくら移転計画進捗状況

第14回 開催日 2023年11月14日(火曜日) 14時から16時

【決議事項】

第1号議案 第1号議案 規程類の改定の承認

【報告事項】

① ゆめ工房さくら移転についての報告

② ゆめ工房の特定寄附について

③ 理事長職務執行報告

第15回 開催日 2024年3月22日(火曜日) 14時から16時

【決議事項】

第1号議案 2023年度補正予算の承認の件

第2号議案 2024年度当初予算の承認の件

第3号議案 2024年度事業計画の承認の件

第4号議案 重要な役割を担う職員の選任の件

第5号議案 常勤職員の処遇・昇格の決定、昇給の決定、年間賞与枠の決定の件

第6号議案 規程類の改訂の承認の件

第7号議案 評議員選任・解任委員の選任の件

第8号議案 評議員選任・解任委員会に推薦する新評議員候補者の決定の件

第9号議案 評議員選任・解任委員会の招集の決定の件

【報告事項】

① ゆめ工房進捗についての報告

② 小金井市指導監査報告

③ 第6回運営協議会報告

④ 理事長職務執行

2. 評議員会

第5回 開催日 2023年6月23日（金曜日） 14時から16時

【決議事項】

第1号議案 令和4年度（2022年度）計算書類の承認

【報告事項】

- ① 令和4年度（2022年度）事業報告
- ② ゆめ工房建設に係る入札について

【重点目標】

1. 組織体制の強化と安定した運営ができる取り組みについて

① ICT化の推進

今年度は業務軽減を念頭に置き、業務日誌を中心とした記録の電子化に取り組みました。電子化に関しては既存のソフトを導入するのではなく、現場職員の意向を踏まえた、表計算を活用した独自の書式で作成しました。現在の書式が完成版というのではなく、必要な変更は早急に対応できるものとしています。

② 障害者総合支援法改正に備えた取り組み

報酬改定の内容の情報を共有しながら、改定の方針を踏まえ、必要とされる体制の準備を実施しましたが、処遇改善を含んだ改定の決定内容が示されたのが年度末間近であったため、予算案に反映させることが出来ず、予算については従前の報酬単価で積算することとなり、新報酬単価での予算は補正で対応することといたしました。

③ 人材育成

「牽引される集団から自走できる集団を目指して」というコンセプトを掲げ、法人職員としての意識の醸成が進むよう、職員会議などの機会を活用し取り組みました。ゆめ工房の移転に関し、様々な役割を担ったことやコロナをはじめとした感染症対応において、徐々に「自走できる集団」としての意識が芽生え始めています。今後も継続して取り組んでいきたいと思っております。

2. ゆめ工房移転に向けた具体的取り組みの実施

ゆめ工房の移転に関し、混乱が予想される事案に対して、予め常勤職員を中心とした専門チームを結成して対応いたしました。お菓子製造をフラワー工房に統合することから「調理室統合チーム」、ゆめ工房を活用した防災に関する「福祉避難所チーム」、総合的な利用者支援の視点で活動を考え動線や備品配置等を検討する「運営チーム」、スムーズで迅速な移転ができる体制を検討する「引っ越しチーム」の4チームが中心となり定期的な会議を開催し取り組みました。

3. 虐待防止の取り組みを継続し、権利擁護、虐待防止に努めます。

虐待防止の取り組みについては、全職員を対象とした虐待防止研修の実施や各事業所における職員会議、身体拘束適正化委員会の実施、職員向け虐待防止セルフチェック

などの機会を通じ、支援意識の向上に努めました。

4. 第三者委員（オンブズパーソン委員）による苦情解決の仕組みを継続します。

定期的な苦情対応の機会（オンブズパーソン相談日）が定着し、利用者の皆さん々も相談日の対応に慣れ、自分たちの思いを伝えることができる環境が構築されてきました。家族懇談会も開催し、利用者をはじめ家族や職員にも安心できる取り組みとなっています。
5. 新たな社会活動の中で可能な交流活動や地域活動に積極的に参加して連携を進め、新しい事業展開の在り方を検討していきます。

新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことから、中断していた地域活動等が徐々に復活し始め、会議や对外販売等実施することが出来ました。
6. 広報誌「さくら」やホームページ、福祉講演会などの情報発信を通じ、障がいに対する正しい理解やさくら会への認識を深めます。

対面による福祉講演会を開催することができ、第 20 回福祉講演会を 2023 年 10 月 19 日（木）に「小金井の障がい福祉の今を知ろう」というテーマで制度の現状や基本的な仕組みについて、小金井市手をつなぐ親の会会長の「畑佐枝子」氏とさくら会吉岡が懇談方式で開催し、第 21 回は 2024 年 3 月 23 日（土）に「生命（いのち）を守る防災・減災」というテーマで、あいおいニッセイ同和損保の「松田祐希」氏をお招きし、防災・減災について講演をいただきました。能登半島地震が発生してすぐという時期でしたので防災・減災の取り組みについて再確認することが出来ました。

広報誌の発行に関しては予定していた発行が出来ず、課題が残りました。
7. 新型コロナウイルス感染症 5 類移行後も予防対策を継続し、安心安全な環境を提供します。

新型コロナウイルス感染症 5 類移行後も従前と同様の予防対策を講じ、各事業所で対応しました。しかしながら、複数の利用者、職員が胃腸炎に罹患する事案があり、改めて感染症対策を確実に実施する重要性を認識しました。
8. 職員の支援力のスキルアップを図ることに关しては、以下の内容で研修等を実施いたしました。新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行しても研修会が引き続きリモート方式で開催されることもあり、全部が対面で実施したというものではありませんでした。

年間研修報告

《さくら会法人内研修》

4月	10日	ケーキ研修（フラワー → ゆめ）	1名
	21日	ウチダシステムズワークショップ	15名
5月	19日	伊藤講師研修実践報告会（伊藤講師）	43名
6月	12日	ゆめ工房伊藤講師心理検査3名（伊藤講師）	3名
7月	25日	初任者研修 担当者 事務局3名 各所長	3名
	27日	ゆめ工房伊藤講師職員研修（伊藤講師）	10名
	31日	フラワー工房伊藤講師心理検査3名	10名
8月	9日	フラワー工房伊藤講師研修	11名
9月	1日	フラワー職員研修（伊藤講師）	11名

10月	19日	第20回福祉講演会 小金井の障がい福祉の今を知ろう	56名
11月	6日	ゆりの木伊藤講師研修	8名
	8日	ゆめ工房職員研修（伊藤講師）	1名
12月	8日	らいむ伊藤講師研修	1名
		虐待防止研修（身体拘束）研修各事業所 3月までに各事業所職員会議にて	全職員対象
1月	18日	ゆめ工房職員研修（伊藤講師）	9名
	26日	虐待防止研修フィードバック（ゆめ）	全職員対象
2月	14日	フラワー伊藤講師研修	10名
	16日	らいか伊藤講師研修	8名
3月	8日	GH伊藤講師研修	18名
	23日	第21回福祉講演会 生命（いのち）を守る防災・減災	全職員対象

《外部研修》

4月	13日	権利擁護研修	1名
4月	26日	地域法人協会 報酬改定の方向性について	2名
5月	26日	医ケア児協議会研修	1名
6月	1日	家族のライフプラン研修（ウイル）	1名
	29日	工賃アップセミナー	2名
7月	5日	市民後見人研修	1名
	10日	工賃アップセミナー	2名
	19日	きらり研修（復籍について）	1名
	31日	権利擁護・虐待防止研修	2名
8月	7.8.30.31日	サービス管理責任者基礎研修	1名
	15日	権利擁護・虐待防止研修	2名
	4日	強度行動障害基礎研修	1名
	30日	高次脳機能障害研修	2名
9月	1日	権利擁護・虐待防止研修	2名
	8日	強度行動障害養成研修	1名
	21日	強度行動障害養成研修	1名
	22日	強度行動障害基礎研修	1名
	25日	自閉症研修	1名
	28日	キャリアⅠ研修	2名
10月	1日	キャリアⅡ研修	1名
	9日	強度行動障害基礎研修	1名
	13日	キャリアⅡ研修	1名
	19日	第20回福祉講演会 小金井の障がい福祉の今を知ろう	5名
	28日	福祉機器研修	2名

9. 活動概要

主な内容のみ記載しています。

04月03日	新年度開始	10月19日	第20回福祉講演会
04月07日	さくら会合同職員会議	12月09日	障害者週間記念行事
04月27日	合同保護者会	12月15日	クリスマス会
07月25日	新任職員研修	03月23日	第21回福祉講演会
10月06日	運動会		

10. 定期的な活動

理事会	4回	運営会議	12回
各事業所職員会議	12回	虐待防止委員会	3回
NPO法人りんく定例会	8回	障害者週間実行委員会	6回
常勤会議	12回	GH連絡会	12回
運営協議会	2回		

11. 他機関連携

※連携の場として設定している内容を記載しています。

福祉NPO連絡会	育成会地域法人協議会代表者会議
指定障害福祉サービス事業者等集団指導	東京グループホーム連絡協議会
小金井市就労支援者連絡会議	小金井市地域ケア会議
東京都育成会大会	育成会新年会
東京都主催経営管理研修	小金井市地域自立支援協議会
小金井市社会福祉協議会理事会	小金井市介護保険運営協議会
小金井市社会福祉法人社会貢献連絡協議会	小金井ボランティア市民活動センター
相談事業所連絡協議会	運営委員会

2023年度：ゆめ工房さくら事業報告書

はじめに

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、「非日常体験」を感じられる取り組みを再開してきました。10月には運動会の開催。保護者や関係者の皆様も観覧できる席を設け、「ボッチャ」が新競技として加わりました。11月には日帰りバスハイク旅行を実施し、鎌倉のホテルでコース料理をいただき、新江の島水族館を見学しました。初めて2台のバスをチャーターし、快適な旅となりました。12月にはクリスマス会+20才を祝う会が開催され、ゆめ工房からは2名の方が祝福されました。

社会福祉法人としての中長期計画であった「ゆめ工房の移転計画」がいよいよ実現化され、徐々に工事が進んでいくのを利用者の皆さんと共に見守ってきました。3月には建物の引き渡しが行われ、2024年5月1日、新しいゆめ工房さくらでのスタートを心待ちにしています。

1. 重点目標

共通目標

◎第三者評価の受審結果を受け、改善につとめていきます。

・記録作業業務の軽減化について

毎日の記録をどのようにしたら良いかを検討いたしました。2024年度には新様式の活用をめざしていきます。

・工賃のしくみについて

働いた時間と働いた内容に重点をおいて算定していく方法を検討しました。

2024年度には利用者さんへの説明も含め、新たな工賃のあり方を提示する予定です。

・高齢化に向けた対応

高齢化に向けて個別に対応できる体制を整えました。特に新ゆめ工房での環境を視野に入れた支援方法を検討し、快適な環境下での支援を心がけました。

◎新型コロナウイルスの感染症予防策に万全を期し、安全安心な環境を提供します。

引き続き、検温・消毒・パーテーションの活用などで、対策を行ってきました。

また、東京都の集中検査にも参加をし、全職員に週2回の抗原検査を実施しました。

◎虐待防止の取り組みを継続して実施し、権利擁護、虐待防止に努めます。

東京都障害者権利擁護・虐待防止研修を受講した職員による研修報告、および「身体拘束について」の講義を視聴し虐待に関する意識を高めました。また、職員のストレスチェック、虐待防止セルフチェックを実施し、職員一人ひとりが自身の支援の振り返りを行いました。

オンブズマンとの相談日も定期的に行われ、利用者のお話を第三者の方々に聞いていただいています。

生活介護

- ◎個々にそった作業・活動を通し、将来につながる「自分らしく生活できる」支援をめざします。

昨年からのカレンダー作りも定着し、共同作業で作る月カレンダー、個性をを活かした年間カレンダー、どちらも素敵にできあがりました。また、「買い物デイ」を作り、自分の買いたいものを買ってくる、という取り組みをしました。パジャマを買ったり、残ったお金でジュースを飲んだりとそれぞれ買い物を楽しませていました。生活体験を重ねていくという目標の下、今後も「頼まれたものを買ってくる。」という目標テーマを設定し取組んでいく予定です。

- ◎外部講師による研修を通し、よりよい支援をめざし、身体介護についてもスキルを身につけていきます。

定期的な伊藤講師の研修を通じ、活動に対する個々の特性に合わせた支援のスキルを学び実行してきました。高齢化に伴う直接介護スキルについては、今後の課題となっています。

- ◎来年の移転に向けて、利用者に寄り添った支援をめざします。

新しいゆめ工房さくらという認識をもてるように移転地をしばしば訪れたり、安定した日常を送れるように新ゆめ工房での活動体制など様々な検討を行いました。

就労継続B型

- ◎個々のスキルアップをめざし、支援方法を検討し、本人の達成感や意欲を醸成する環境を作ります。

日々の作業の中で得意なことと作業を結びつけ、達成感が得られる取り組みを行いました。

- ◎通所することに困難を抱える利用者に対して、訪問支援を実施します。

精神面での不調により通所できない利用者に関して、訪問支援や電話での支援を行いました。また、事業所外での活動を提供することで、通所意欲を高める取り組みを行い数回参加していただくことができました。

- ◎来年の移転に向けて、新たな作業を模索していきます。

東京都障害者施設生産活動応援センターに登録し、新たな作業を模索しています。

2. 利用者状況 (2023年3月31日現在)

- ① 生活介護 定員 15名 現員 13名
② 就労継続B型 定員 20名 現員 19名

年齢	ゆめ(継続B)		ゆめ(生活介護)		合計
	男	女	男	女	
10代	0	1	1	0	2
20代	3	1	3	0	7
30代	0	2	1	0	3
40代	0	1	2	2	5
50代	4	3	3	0	10
60代	1	1	0	0	2
70代	1	0	0	1	2
80～	1	0	0	0	1
合計	10	9	10	3	32

	男	女
最小年齢	19歳	19歳
最高年齢	84歳	72歳
平均	44.5歳	45.7歳
男女平均	44.9歳	

③ 障がい支援区分

生活介護

	現員	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	10	0	0	1	2	3	4
女	3	0	0	0	0	1	2
合計	13	0	0	1	2	4	6

就労継続B

	現員	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし
男	10	0	0	3	4	1	0	2
女	9	0	1	2	3	0	0	3
合計	19	0	1	5	7	1	0	5

④ 愛の手帳

	現員	1度	2度	3度	4度	手帳なし
男	20	0	12	4	4	0
女	12	0	3	6	2	1
合計	32	0	15	10	6	1

3. 職員体制

多機能型			
生活介護1・就労継続B型			
職種	常勤	非常勤	備考
所長	1		
サービス管理者	(1)		所長と兼務
支援員	5	9	
看護師		1	週1回
嘱託医		1	月1回
小計	6	11	
合計	17		

・利用者状況や支援内容によって、職員の体制を柔軟に対応しているため、生活介護と就労継続B型の職員の総数を掲示している。
看護師1名を配置している。
嘱託医1名を配置(月1回来所)

4. ボランティア協力体制

・ゆめ工房の運営には地域の多数のボランティアの方々の協力があり、日々の作業活動はもとより行事活動や余暇活動に至るまで多大な尽力をいただきました。

2023年度ボランティア在籍数 5名

5. 活動内容

① 作業種目

共通：公園清掃・凧製作・DM作業・モミガラ詰め

就労B：焼き菓子製造・センター清掃・リサイクルバッグ制作 等

生活：古紙回収・畑作業 等

② 活動

共通：水曜活動（音楽・アート・スポーツ 隔週）

生活：創作活動（絵・手芸・工作等）・体を動かす活動・音楽活動・書道（月1回）

6. 虐待防止の取り組み

今年度も虐待セルフチェックやストレスチェックを行うことで、職員の自己チェック、権利擁護・虐待防止研修、身体拘束についての講義の視聴を行い、虐待防止の意識向上に努めました。

7. 職員研修

今年度も引き続き、社会福祉法人幸会理事長伊藤浩理事長を講師に迎え、所内職員研修をおこないました。日頃の支援方法、活動の進め方等を学び、また、困難なケースについて助言をいただき、支援力向上につとめてきました。また、外部研修としては、必要とされる資格の研修や支援技術研修、他事業所の事例発表会に参加し、職員の支援技術のスキルアップをはかってきました。

また、3月の福祉講演会における合同職員研修では、「生命（いのち）を守る防災」についての研修を実施しました。

8. 苦情解決

苦情の受付のみならず利用に関する要望など所長が窓口となり対応しています。その他の苦情相談に関しては、事業所のみならず、市の相談員、小金井市苦情調整委員、福祉サービス運営適正化委員会の連絡先を重要事項に記載するとともに丁寧にご案内をしています。（事業所内にも掲示）今年度の具体的な苦情はありませんでした。

9. 実習・見学

地域の社会資源としての役割として、積極的に様々な機関からの実習や見学を受け入れています。

実習・見学の種類		受け入れ先	人数
1	体験実習	田無特別支援学校	4名
2	福祉体験実習	慈恵会医科大学	2名
3	現場実習	田無特別支援学校	2名
4	現場実習	けやきの森学園	1名
5	インターンシップ	小金井特別支援学校	21名
6	見学	相談支援員・特別支援学校教諭・保護者等	12名

10. 地域連携

地域の方々のご協力により、以下のイベントに参加させていただきました。

05月14日 貫井南公民館まつり出店

08月08日 アートクラブ東図書館壁面装飾製作展示

11月21日 障害者週間 市役所販売

12月03日 虹の家展示会出点

02月27日 イトーヨーカドー出店

03月07日 アートクラブ東図書館壁面製作展示(3/8～)

*その他 福祉マルシェ出店(立川・吉祥寺・三鷹・国分寺・武蔵境・武蔵小金井)

11. 行事・活動

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は受けましたが、規模を縮小して、以下の行事や活動を行いました。

4月 新人歓迎会	10月 さくら会運動会
5月 なし	11月 日帰り旅行
6月 なし	12月 クリスマス会・20才を祝う会
7月 なし	1月 初詣・書初め
8月 なし	2月 なし
9月 上棟式参加・プラネタリウム鑑賞	3月 お買い物デイ(生活介護)

【その他】 書道/月1回(生活介護) 昼食を買う日/数回

9月 防災訓練 12月 小金井市集団検診(39歳以下)

12. 年間利用者数

年間集計表

事業/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
生活介護	260	252	280	249	200	243	251	237	245	224	172	224	2,837
就労継続B	325	328	346	321	255	273	330	300	319	297	238	302	3,634
訪問支援	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	7
ボランティア	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
見学	1	2	0	2	0	0	7	0	0	0	0	0	12
実習・体験受入	0	0	3	21	0	1	3	0	0	2	0	0	30
送迎	368	333	370	338	259	303	322	287	313	288	215	264	3,660
総合計	960	921	1005	936	720	826	918	830	882	816	630	796	10,240

2023年度：フラワー工房さくら事業報告書

はじめに

新型コロナウイルス感染症が昨年5月に5類に移行し、コロナ禍以前の日常が戻りつつある一年でした。行事につきましては、11月に鎌倉・新江ノ島水族館への日帰りバスハイクを実施し、おいしいランチを堪能、イルカショーを楽しみました。作業につきましては、請負作業の受注量が増加し、またいくつかの地域のイベントも再開されて自主製品であるクッキー販売の機会も増え、6月にはカフェを再開することができ、工賃向上につなげることができました。

また、中期計画であるゆめ工房の移転に伴う調理室の統合を1月末に実施、2024年度の本格的稼働に向け準備を行いました。

1. 重点目標

- ① 外部講師による研修を通し、より良い支援を目指していきます。
 - ・伊藤講師の研修において助言を受け、利用者支援向上に努めました。
- ② 居心地の良い作業所作りを目指します。
 - ・メンバー会議の活用
メンバー会議は利用者方による会議体で活動の内容、みんなの決まり事を決めていく内容を中心に月1回開催されている会議です。その会議にて運動の日の内容（季節を楽しむ散歩、ボッチャ、ペットボトルボーリング、ダンス）や「お弁当の日」（好きな昼食を自分で購入して食べる活動、今年度は2回実施しました。）の内容を利用者方が決定し、みんなの合意に基づいた取り組みを実施しました。
- ③ 目標工賃：平均工賃（月）10,000円を維持します。
 - ・平均工賃（月）16,378円となり平均工賃（月）10,000円を達成しました。
 - ・工賃のしくみについて
働いた時間と働いた内容に重点をおいて算定していく方法を検討しました。
2024年度には利用者さんへの説明も含め、新たな工賃のあり方を提示する予定です。
- ④ 第三者評価の受審結果を受け、改善点に取り組んで行きました。
 - ・記録の電子化につきましては検討を重ねてきましたが、まだ本格実施には至りませんでした。
- ⑤ カフェりあんでの自主製品の販売や、地域交流の場となるような運営を検討しました。
 - ・6月にカフェをリニューアルし、飲み物提供を再開し、より充実した接客業務を身につける取り組みを行いました。また、近隣の方の利用も徐々に回復しつつあり、自主製品の売り上げなど増えています。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症予防策に万全を期し、安心安全な環境を提供します。
 - ・室内の消毒、手洗い、換気、アクリル板の設置、空気清浄機使用など感染対策を継続し、また東京都の集中検査事業を利用して、週2回職員の抗原検査を実施しました。
- ⑦ 虐待防止の取り組みを継続して実施し、権利擁護、虐待防止に努めます。

- ・東京都障害者権利擁護・虐待防止研修を受講した職員による研修報告、および「身体拘束について」の講義を視聴し虐待に関する意識を高めました。また、職員のストレスチェック、虐待防止セルフチェックを実施し、職員一人ひとりが自身の支援の振り返りを行いました。

1. 利用者状況 (2024年3月31日現在)

年齢	フラワー(継続B)		合計
	男	女	
10代	0	1	1
20代	2	3	5
30代	3	7	10
40代	2	2	4
50代	1	1	2
60代	0	2	2
70代	0	0	0
80～	0	0	0
合計	8	16	24

	男	女
最小年齢	20歳	19歳
最高年齢	54歳	67歳
平均	37.6歳	37.8歳
男女平均	37.2歳	

- ① 就労継続B型 定員 20名 現員 24名
 ② 障がい支援区分

	現員	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし
男	8	0	0	3	4	1	0	0
女	16	0	0	0	8	2	1	5
合計	24	0	0	3	12	3	1	5

- ③ 愛の手帳

	現員	1度	2度	3度	4度	手帳なし
男	8	0	3	5	0	0
女	16	0	2	10	4	0
合計	24	0	5	15	4	0

2. 職員体制

就労継続B型			
職種	常勤	非常勤	備考
所長	1		
サービス管理者	(1)		所長と兼務
支援員	3	7	
			週1回
小計	4	7	
合計	11		

3. ボランティア協力体制

- ・フラワー工房の運営には地域のボランティアの方々の協力があり、日々の作業活動はも

とより行事活動や余暇活動に至るまで多大な尽力をいただいています。

2023年度ボランティア在籍数 1名

4. 活動内容

① 作業種目

クッキー製造販売
ショッピングバック
リサイクルバック製作
凧製作
コーヒーギフト
ダイレクトメール
割りばし封入
清掃（小金井市障害者センター、公園）等
カフェ運営

② 余暇活動

水曜活動（音楽クラブ・スポーツクラブ・アートクラブ）隔週
運動の日（第3金曜日）
それいゆ（未実施）
お誕生日会
メンバー会議

5. 職員研修

・職員研修の内容としては、社会福祉法人幸会理事長伊藤浩理事長を講師として、研修を実施しました。

また3月の福祉講演会における合同職員研修では、「生命（いのち）を守る防災・減災」についての合同職員研修を実施しました。

6. 苦情解決

・苦情の受付のみならず利用に関する要望など所長が窓口となり対応しています。その他の苦情相談に関しては、事業所のみならず行政窓口等の情報を伝えています。具体的な苦情はありませんでした。

7. 実習・見学

・地域の社会資源としての役割として、積極的に様々な機関からの実習や見学を受け入れています。

	実習・見学の種類	受け入れ先	人数
1	職場体験実習	田無特別支援学校	3名
2	施設見学	地域福祉課	2名
3	福祉体験実習	慈恵医科大学	2名
4	施設見学	武蔵野東学園（保護者）	2名

8. 地域連携

・地域連携としての活動については、以下のイベントでの出店販売を行いました。また、市内の事業所の集まり「りんく」の定期的な連絡会に参加し、障がいの種別を越えた様々な事業所間との協働や連携を行いました。

05月14日 貫井南公民館まつり 出店

08月08日 アートクラブ東図書館壁面装飾制作展示

11月18日 しんあい保育園保育展 出店

11月21日 障害者週間 市役所販売

01月27日 イトーヨーカドー 出店

03月24日 貫井北センターまつり 出店

*その他 福祉のマルシェ出店（立川・吉祥寺・三鷹・国分寺・武蔵境・武蔵小金井）

9. 行事・活動

・今年度は以下の行事や活動を行いました。

4月 入所お祝い会	10月 さくら会運動会
5月 なし	11月 日帰りバスハイク
6月 なし	12月 クリスマス会
7月 なし	1月 初詣
8月 プラネタリウム鑑賞	2月 なし
9月 なし	3月 なし

*その他

9月・3月 防災訓練

12月 小金井市集団検診（39歳以下）

02月 歯科検診

10. 年間利用者数

年間集計表

事業/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
就労継続B	415	418	458	407	415	380	429	413	406	388	344	405	4,878
訪問支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボランティア	4	5	5	4	5	4	4	5	5	4	3	4	52
見学	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
実習・体験受入	0	1	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	6
送迎	0	0	10	0	1	2	0	0	1	18	3	0	35
総合計	419	424	473	411	422	388	436	420	412	410	350	409	4,974

2023年度：グループホームさくら事業報告書

はじめに

新型コロナウイルス感染症の5類への移行を受け、少しずつ通常の生活に戻りつつあります。一方、コロナだけでなく、その他の感染症に対しても、改めて、対応マニュアルの見直しと充実の必要性を感じる年度でもありました。それでも、休日宿泊による外食や外出など、それぞれのユニットに合わせた活動を行うことによって、これまでより、幅広く活動で来たと思います。これからもより安全な生活を確保すると共に、それぞれのユニットで皆さんにとって有意義な生活が過ごせるように努めてまいりたいと思います。

1. 重点目標

＜グループホームさくら 共通目標＞

- ・2022年度からの新しい形の個別支援計画に基づいて支援を行ってまいりました。個別の目標に沿っての支援の在り方を、それぞれの目標に沿って、検討を重ねながら実践しました。「その人らしい生活」を実現するため、小さなことから一つずつ積み重ね、成果を上げてきた1年であったと思います。

- ・常勤職員が参加する月1回のグループホーム連絡会を開催し、3ユニットの連携、日中活動との連携をはかりました。情報共有の上、個々の利用者の支援方法や制度の方針等について検討する場となり、よりよい支援を目指すことに役立っています。

- ・記録の効率化に向けて、電子化の足掛かりとして、事務処理の電子化から、本部職員との連携によって取りかかっています。記録の全般的な電子化による効率化は、今後の課題となっています。

- ・ケース記録の継続を行いました。目標に沿って、業務軽減の視点を伴いながら記録を継続することの課題を含め、記録の電子化と共に継続できる仕組みを検討しました。

- ・祝日の宿泊利用や週末利用の機会を増やし、利用率アップと自立に向けた体験を含めた取り組みを行いました。週末利用は少しずつ増え、自立へ向けた取り組みとして定着しつつあります。祝日の宿泊利用も新しい体験のできる、貴重な機会となりました。

- ・虐待防止の取り組みとして、常勤職員による、東京都の虐待防止研修への参加と各ユニットへの報告と振り返りを行いました。また、厚生労働省からの配信動画視聴方式による全員研修を行いました。

また、虐待防止セルフチェックやストレスチェックを行い、職員一人一人が自分自身を振り返り、虐待防止の意識を高める取り組みを行いました。

- ・新型コロナウイルス感染症の予防対策として、消毒、換気、アクリル板設置の継続等、基本的な対策に加え、東京都の集中的検査事業を利用して、職員の毎週PCR検査を継続して実施いたしました。

＜らいむ（来夢）＞

① 個別支援計画に基づき、ご本人らしい自立生活を目指していきます。

- ・新しい形の個別支援計画によって、目標を明確にすることができ、本人にとって分かりやすく、職員にとって支援の向上に役立つ内容となりました。

- ② 高齢化に伴う生活課題や健康管理、こだわりの軽減等、必要な支援のタイミングを捉えながら生活の充実を図ります。
- ・高齢化による生活課題を具体的に解決するため、通院同行による医療相談や、訪問リハビリの導入、生活環境を整えるための手すりの設置等を行い、機能維持と生活の安全を図っています。また、こだわりへの対応に対する検討と実践等、個別のニーズに対応するように、スタッフ会議での話し合いを重ね、必要なタイミングで支援できるように取り組みました。
- ③ 高齢化に向けて、支援の中で変化を見逃さないように、チェック項目の作成と、実用を目指してゆきます。
- ・実際の支援の中で、変化を見逃さないように、情報の共有を図りました。チェック項目の作成には至りませんでした。記録の電子化の検討項目として、身体状況の項目や、動作に関するチェック項目を日常の記録の中に取り込むことによって、統計化し、変化を見逃さない工夫を検討しました。具体的な書式については来年度も継続して取り組みます。

<らいか（來花）>

- ① 個別支援計画に基づき、ご本人らしい自立生活を目指していきます。
- ・個別支援計画の作成によって、目標が明確化され、それぞれの方に具体的な課題を設定することができ、支援に繋がっています。
 - ・日常生活の中から、具体的な課題を見つけ、一つずつ取り組み、その課題が達成されることによって、ご本人の自信に繋がり、生活が充実してきています。
- ② 個人の余暇時間を大切にしながら、集団としても楽しめる事を増やすように、アプローチしていきます。
- ・個別の余暇時間設定の工夫と、集団での楽しみを組み合わせることで楽しい時間を過ごしています。
 - ・休日宿泊の時には、仲間たちと一緒に外出することによって、集団としての楽しみを満喫することができました。
- ③ 個別支援計画に基づき、健康管理に重点をおいて、プログラムを実施していきます。
- ・個別の健康状況に応じて、ストレッチ等のプログラムを実施しました。十分な健康観察と運動プログラムを継続して実行するため、障害者センターの機能訓練事業と連携し対応し、取り組みました。その結果、機能回復とご本人の自信に繋がり、良好な状態を維持・継続できています。

<ゆりの木>

- ① 個別支援計画に基づき、ご本人らしい自立生活を目指していきます。
- ・新しい形の個別支援計画によって、目標が明確化され支援に役立っています。
- ② 将来に向けて、生活の具体的な課題を設定すると共に、内面に向き合いながら関わっていきます。
- ・ご本人の希望を聞きながら、具体的な課題を設定し、それぞれの必要に応じて、実行してきました。生活課題への取り組みから、社会生活での課題へと広がり繋がっています。

・課題に取り組むと共に、ご本人と話し合うことで、ご本人の状況や環境の変化による内面の変化を捉えながら支援することができました。

③ 通所の方法なども、ご本人それぞれの選択によって、徒歩通所や公共交通手段の利用を選択する通所を継続してゆきます。

・その日の天候や季節、体調等によって、それぞれの方が、支援員と相談したり、ご自身で考えながら、通所方法を選択・決定し、通所を継続することが出来るようになってきています。

2. 利用者状況と利用実績

① らいむ 男性5名 らいか 女性5名 ゆりの木 男性5名

年齢	らいむ(来夢)		らいか(来花)		ゆりの木		合計
	男	女	男	女	男	女	
10代	0	0	0	0	0	0	0
20代	0	0	0	0	0	0	0
30代	1	0	0	4	4	0	9
40代	0	0	0	1	1	0	2
50代	4	0	0	0	0	0	4
60代	0	0	0	0	0	0	0
70代	0	0	0	0	0	0	0
80～	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	0	0	5	5	0	15

	男	女
最小年齢	33歳	31歳
最高年齢	56歳	43歳
平均	44歳	37歳
男女平均	42歳	

② 障がい支援区分

	現員	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし
らいむ男	5	0	0	1	1	2	1	0
らいか女	5	0	1	0	2	1	1	0
ゆりの木	5	0	0	1	3	1	0	0
合計	15	0	1	2	6	4	2	0

③ 愛の手帳

	現員	1度	2度	3度	4度	手帳なし
らいむ男	5	0	3	1	1	0
らいか女	5	0	2	3	0	0
ゆりの木	5	0	1	4	0	0
合計	15	0	6	8	1	0

④ 利用実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
らいむ	98	101	106	106	86	98	102	105	101	97	88	103	1191
らいか	74	63	67	60	60	57	66	66	53	58	39	63	726
ゆりの木	82	80	92	80	86	71	82	91	82	88	85	93	1012
合計	254	244	265	246	232	226	250	262	236	243	212	259	2929

宿泊年間合計

らいむ 年間合計	1191	人泊
らいか	726	人泊
ゆりの木	1012	人泊
合計	2929	人泊

3. 職員体制

らいむ (来夢)			
共同生活援助			
職種	常勤	非常勤	備考
所長	1		
サービス管理者	1		
生活支援員	2	7	兼務者含む
小計	3	7	
合計	10		

らいか (来花)			
共同生活援助			
職種	常勤	非常勤	備考
所長	1		
サービス管理者	1		
生活支援員	1	6	兼務者含む
小計	2	6	
合計	8		

ゆりの木			
共同生活援助			
職種	常勤	非常勤	備考
所長	1		
サービス管理者	1		
生活支援員	2	4	兼務者含む
小計	3	4	
合計	7		

4. 活動内容

- 4月 月例会議 防災点検 お誕生日会 オンブズパーソン
- 5月 月例会議 実践発表会 お誕生日会 保護者会
- 6月 月例会議 防火防災訓練 お誕生日会
- 7月 月例会議 お誕生日会
- 8月 月例会議 お誕生日会 強度行動障害支援者養成基礎研修
- 9月 月例会議 強度行動障害支援者養成基礎研修
- 10月 月例会議 防災点検 お誕生日会 ハロウィンパーティー オンブズパーソン
育成会「キャリアⅡ研修」
- 11月 月例会議 保護者会 祝日宿泊 伊藤講師研修会
強度行動障害支援者養成基礎研修
- 12月 月例会議 お誕生日会 クリスマス会 防火防災訓練 伊藤講師研修会
- 1月 月例会議 お誕生日会 オンブズパーソン
- 2月 月例会議 GH見学会 伊藤講師研修会
- 3月 月例会議 お誕生日会 伊藤講師 GH全体研修会 祝日宿泊

5. 虐待防止の取り組み

- ・虐待防止に関するストレスチェックをおこない、集計し、報告しました。
- ・外部機関のストレスチェックを受け、職員一人一人が自分自身の振り返りを行いました。
- ・厚生労働省の虐待防止研修を動画配信によって受講しました。
- ・東京都虐待防止研修参加者の報告を受け、振り返りを行ないました。

6. 職員研修

・所内研修として、社会福祉法人幸会理事長伊藤浩理事長を講師として、ユニットごとに研修を実施しました。各ユニットではそれぞれのケースの課題について、積極的で多様な質問に的確な回答と学びを深めるアドバイスを頂きました。課題の整理ができることによって、支援の根拠を確認でき、具体的な支援の方向性を共有することができました。また、グループホーム全体での伊藤講師による研修を昨年度に引き続き行いました。グループホームに求められている方向性が地域での自立を強く求める方向へ、変化していることと、次年度から導入される報酬改定との兼ね合いを含め、これからのグループホームの課題について講義を頂き、今後の在り方を見極めなければならないことを再認識することができました。日々の支援の積み重ねと、将来を見据えて、目指すべき方向性を探りながら、息の長い支援が必要であると実感いたしました。

7. 苦情解決

・苦情の受付のみならず利用に関する要望など所長が窓口となり対応しています。その他の苦情相談に関しては、事業所以外の行政窓口等の情報を伝えていますが具体的な苦情はありませんでした。また、オンブズパーソンの方との相談を実施いたしました。各ユニットごとに話し合いが行われ、日頃の様子や GH への要望などの発言がありました。

8. 地域連携

・グループホームは地域に根ざした大切な生活の拠点です。グループホームさくらの事業所は、近隣の方々から日々温かい眼差しで見守ってくださり、大変ありがたく感じています。今後も事業所が増えることに伴い、地域との関係や連携はとても大事になります。我々ができる地域貢献とは何なのかを考えながら利用者支援に取り組んでいきたいと考えます。

2023 年度 あしすと さくら事業報告

はじめに

新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことから徐々に対面による相談支援が提供できるようになりました。その中でも、児童から成人へ移行する際の計画相談の移行ケースや本人を含む家族が障がいを抱えているケース、家族を含めた高齢化対策のケース等が顕著となり、慎重に利用者・家族・関係者との関係を構築しながらサービス利用に繋いでいくケースも増え、相談支援を通して今後の社会保障のあり方を考えさせられる年度となりました。

今年度も、基幹相談支援センターが主催する相談支援事業所連絡会に参加し、ケース検討や他事業所との定期的な情報交換の場として地域の相談支援の現状を共有することが出来ました。連絡会を通じて、地域で大きな役割を担う地域生活支援拠点事業に関わっていくことを決定し登録することとしましたが、実際には面的整備の整備状況が充分とは言えず、地域としてどう充実させていくかが課題となっています。

また、小金井地域を含めた相談支援事業所が事業から撤退する事案が増え、利用者の移行の問題に関して、早急にその道筋を決めていく必要性や現状の報酬体系において相談支援事業所を運営していくことが大変厳しい状況であることを改めて痛感しました。

今後の相談支援事業のあり方については、これらの不安を払拭するため行政からの何らかの支援を構築しなければ非常に厳しくなることが浮き彫りとなり、早急な体制整備や行政との連携強化や支援策が求められます。

事業報告は重点目標とした内容を中心として報告いたします。

【事業報告】

1. 定例ミーティングを月 2 回とし、情報の共有と事例検討を通じて個々のスキルアップを図るということに関しては、新型コロナ禍であっても対面によるミーティングを基本とし、第 2、第 4 水曜日を定例会議日と設定し、相談支援専門員全員によるケースの見立てや具体的支援内容についての協議の場としました。
2. 基幹相談支援センターの標準ケース会議や計画相談支援検討会議に参加し、情報の把握や連携体制の構築に勤めることに務めました。ようやく基幹相談支援センター主催の相談支援事業所連絡会において他事業所との情報交換が実現しました。
3. 虐待防止の取り組みに関しては、研修の受講や虐待セルフチェックの実施、定例会議での意見交換を行い、権利擁護、虐待防止に努めました。また、虐待防止の啓発に関しても相談支援の場においてわかりやすく説明することを心がけました。
4. 医療ケア児に関するサービス等利用計画のスキルアップに関しては、医療的ケア児コーディネーターとして 2 名の相談支援専門員が配置されており、新型コロナウイルス

感染症の影響で開催は限られましたが、リモートによる研修の機会などを通じて研鑽を積みました。

5. 困難事例ケースの対応について関係機関との連携に努めることに関しては、行政関係者、他事業所相談支援専門員、介護保険のケアマネージャー、病院の医療ソーシャルワーカー、事業所サビ管等と緊密な連携の元、対応しました。困難ケースとしては9件ほど増加しています。

6. 年間計画作成数

成人

事業/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
計画作成	4	3	4	1	7	7	4	2	3	4	5	4	48
モニタリング	7	7	11	14	13	11	9	8	17	16	11	10	134
総合計	11	10	15	15	20	18	13	10	20	20	16	14	182

児童

事業/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
計画作成	1	0	0	1	2	1	0	1	2	1	1	2	12
モニタリング	1	0	1	1	2	1	0	0	2	1	2	2	13
総合計	2	0	1	2	4	2	0	1	4	2	3	4	25

※昨年度より19件増となっている。

7. 相談員体制

- ・管理者 1名
- ・相談支援専門員 3名（内2名 医療ケア児コーディネーター資格有）
- ・相談員 2名